

ゼロカーボンシティを目指す大津市

大津市は今年3月、二酸化炭素などの温室効果ガス排出量を2050年度までに実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを宣言しました。気候変動による深刻な自然災害の発生を背景に、「カーボンニュートラル」の実現に向けた動きが世界的に加速する中、大津市でも市役所が率先して行動を起こし、市民や事業者にも行動を呼びかけようとするものです。

目標達成に向けて様々な取り組みが始まっています。例えば、本庁舎の既存の照明機器のLED化や、市民センターのZEB化改修等について、今後1年間かけて調査・検討していく予定です。既に本庁舎の使用電力は100%再生可能エネルギーを導入済で、今年度中に電気自動車2台を公用車として試験的に導入するなどして省エネに取り組めます。

また、これまで紙ベースで実施してきた「エコライフデー」のチェックシートをデジタル化して、気軽にスマホ等で自身の省エネ度をチェックできるようにする計画もあるそうです。

「カーボンニュートラル」の実現と聞くだけで、何だかワクワクしてきます。誰もが豊かに暮らせる未来に向けて、私たち市民もできることから取り組みたいですね！



エコライフデー
チェックシート



※ゼロカーボンシティとは？

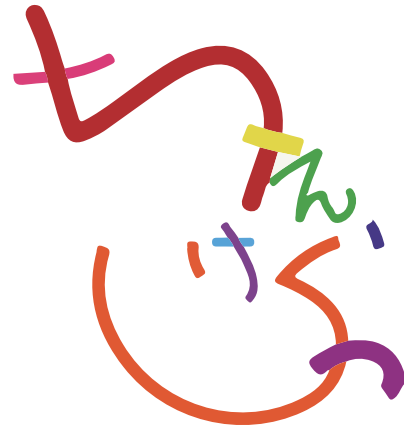
2050年（令和32年）にCO2を実質ゼロにすることを目指すことを公表した地方自治体のことです。

※カーボンニュートラルとは？

二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、植林、森林管理などによる「吸収量を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味しています。

※ZEBとは？

Net Zero Energy Building（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の略称で、「ゼブ」と呼びます。快適な室内環境を実現しながら、省エネと創エネの組み合わせにより、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指す建物のことです。



vol.25

大事な暮らしの中にある
“CHECK IT OUT!（注目・見逃さないで！）”
なヒト・モノ・コトを発信する情報誌
「ちえけらっ」vol.25



7月1日はびわ湖の日！



1980年（昭和55年）7月1日、滋賀県では琵琶湖の富栄養化の原因となる窒素、リンの排出規制等を定めた「滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」（琵琶湖条例）が施行されました。その翌年、琵琶湖条例施行1周年を記念して、県により7月1日が「びわ湖の日」と定められました。

毎年7月1日前後には、県内全域で河川や道路の清掃活動が実施され、びわ湖を守り、琵琶湖と親しむという趣旨の様々な取り組みが行われています。最近これらの活動を「びわ活」と呼ぶようになりました。

今回は大津で行われている環境を守る取り組み（びわ活）について、取材してみました。

映画「水俣～患者さんとその世界」上映会 開催決定！

1950年代に発見された水俣病。当時は奇病と言われ伝染病の可能性を疑われる中、患者さんとそのご家族は酷い差別を受けてきました。化学工業メーカーのチッソが流してきた有機水銀が原因と公式発表されるまでに13年を要し、公式発表後もチッソは責任を認めなかったそうです。

チッソを相手どり裁判を起こした29世帯を中心に描いた感動のドキュメンタリー「水俣～患者さんとその世界」の上映会開催が決まりました。水俣病問題をテーマに多くの作品を残した土本典昭監督の大作です。ところで、水俣と琵琶湖は、実はつながっていることをご存じですか？琵琶湖の環境を考える上で、知っておきたい水俣病の歴史を、この映画は叙述に描いています。

映画に続き、学識者、水俣病関係者、環境団体、地元の若者などをパネリストに招き、水俣病から琵琶湖環境を考えるフォーラムを開催します。併せてぜひご参加ください。

日 時：2022年10月1日（土）
10時～、13時～（2回上映）
会 場：スカイプラザ浜大津
（大津市浜大津1丁目3-32）
参加費：1000円
※午後の上映会に続いてフォーラムを開催する予定です。



キッズ夏休み SDGs 絵画教室



アートをツールに子どもの心を育む「こどもアトリエ青」の石田先生を講師に迎え水彩画教室を開いていただきます。絵を描くことが苦手な子どもも好きな子どもも楽しく想像力、創造性を培っていきましょう。

日程 2022年7月31日（日）、8月21日（日）
時間 各日2回（2時間）10時～／13時30分～
対象 市内の小学校3-6年生
定員 各15名（要予約）
参加費 1200円（材料費含む、用紙は各自持参）
※おつ SDGs 子ども絵画コンクールへの
ご応募が参加条件となります。

音楽絵本で リトミック



ピアノの音や声に合わせて動くリトミックで、リズム、音感の基礎や集中力、思考力を養います。絵本の読み聞かせでは、本に親しみ、楽しむ気持ちやコミュニケーション能力、共感能力を育てます。

日時 2022年8月5、19日（金）
12時～（約1時間程度）
会場 大津市市民活動センター
対象 しっかりお首のすわった生後3ヶ月～就学前まで
参加費 1000円（2人目からは500円）
定員 各25名（要予約）
※予防接種後72時間以内のご参加はお控えください。

●発行：大津市市民活動センター（指定管理者：NPO法人HCCグループ）
〒520-0047 大津市浜大津4-1-1 明日都浜大津1階
開館時間：9時～21時（カウンター業務は月～土の9時～19時）
TEL：077-527-8661 / FAX:077-527-8662
HP: <http://movementotsu.com> / mail:moveinfo@movementotsu.com

大津・SDGs 協働支援チャリティプロジェクト2022

大津市市民活動センターでは、市民・企業・行政・大学による四者協働として、2018年より「SDGs（持続可能な開発目標）」の理解を深めながら、住みやすいまち・大津を目指すプロジェクトを進めてきました。

5年目の2022年度は、SDGsの目標5「ジェンダー平等を実現しよう」をテーマにSDGsの推進と地域課題に取り組みます。イベントの参加費などは「社会的、経済的に不平等の状況に置かれた女性」の支援をしている団体に寄付しますので是非ご参加下さい。

詳しくはセンターホームページをご覧ください。



ホームページ



びわ湖チャリティウォーク&クルーズ



木工教室

みんなで楽しく！！ ベビーリトミック

会場：明日都浜大津1階
対象：生後3ヶ月から就園前頃まで
参加費：1回500円
問合せ：070-5266-2890
講師：七蔵司きよみ
（保育士・リトミック講師）

ピアノに合わせて
リトミックや
知育活動を楽しもう！

大津リトミックグループ

保育士・音楽教室講師によるメンバー構成で
毎月、明日都浜大津で開催しています。



広告募集中

詳細はセンターまで
お問合せ下さい

川を学び、楽しみ、愛しましょう！

新大宮川を美しくする会

2016年に比叡山のふもと、琵琶湖に面する大津市比叡辻で設立した河川愛護団体「新大宮川を美しくする会」は、通称「新大宮川」（一級河川大宮川・足洗川の下流部）とその周辺の美化清掃、周辺景観改善、快適で良好な水辺環境や関連する文化活動の啓発・発展を率先することなどを目的として、草刈り・ごみ拾い、花壇づくり、植樹、魚道復活・再生活動、水質調査、魚類調査、アユの産卵床づくりや産卵調査、野鳥・ホタル・トンボ・野草の観察会、防災学習会、歴史講座などを行っています。

今年7月は専門家を招き、「夏の川辺のトンボとヤゴ」と題する観察会や、アユが川を遡上しやすいように魚道に溜まった土砂を皆でスコップ等を用いて取り除いたり、川の水が魚道に流れる滞筋（みおすじ）を作ったりする魚道復活・再生活動を行います。また、明治時代の琵琶湖大洪水で最大浸水位を記録した日で、約450年前、織田信長による比叡山の焼き討ちで地元坂本の町が焼け野原になったと言われる9月12日を地元の防災の日にしようと、今年は9月10日に防災学習会を開催します。ぜひ、ご参加ください。新大宮川の活動にご参加いただき、その次は、皆さんがお近くの川で活動を始めていただければ幸いです。一緒に、川を学んで、楽しみ、愛しましょう！



会長 山本克也



ホームページ：
<https://ameblo.jp/shinomiya-gawa>
 E-mail shinomiya-gawa@gmail.com



市民から積極的な行動を！

おおつ環境フォーラム

大津市は2000年にアジェンダ21をおおつを策定し、市民、事業者、行政のパートナーシップで地球環境保全に取り組むことを宣言し、その市民組織として、おおつ環境フォーラムが作られました。その後、2013年には、NPO（特定非営利活動法人）となりました。したがって、およそ20年間、おおつ環境フォーラムでは、100名を超える市民と数社の事業者が、市と共に地球環境問題など環境保全活動に取り組んできたことになりました。



活動の内容は、「地球温暖化防止活動」や「自然保護・生物多様性保全活動」の他、子どもの教育やごみ問題に関することなど、いろいろなグループが活動を行っています。具体的には、「おおつエコフェスタ」を開催し親子で楽しく環境について学ぶイベントをはじめ、「おおつ市民環境塾」では講座を開いて自然や地球環境の勉強をしたり、「自然家族事業」では里山での工作や畑でサツマイモを植えたり、川やびわ湖での生きものを調べたりしています。また、「エコライフデー事業の推進」では、家庭での省エネの普及啓発活動をしています。欧米に比べると、日本の温暖化防止対策は立ち遅れていますので、市民から積極的に行動していきましょう。 理事長 竺文彦



ホームページ
<https://eco-otsu.net/>



●豆知識 琵琶湖のあれこれ 琵琶湖は「日本一」大きな湖。その大きさをまとめてみました。
 面積：約670km² 湖岸の延長：約235km（※道路沿いに進めば約200km） 深さ（最も深いところ）：約104m 南北の長さ：約60km
 そして、水の量は275億トン。これは琵琶湖の水を利用する淀川流域の1450万人が1日に使う水の量の約11分分に相当するそうです。
 最初の古琵琶湖からは400万年、現在の琵琶湖になってからでも40万年の歴史を持ち、60種以上の固有種が生息しています。一般的な湖は1万年程度で消失するそうで、10年以上の歴史を持ち、固有種がいる湖（古代湖）は、世界に約20しかなく、日本では琵琶湖だけです。

美しい地球と未来のために、リサイクルを推進！

黒田紙業株式会社

当社は、廃棄物の減量と資源の再利用を自らの社会的な使命として、あらゆる古紙を「捨てない・埋めない・燃やさない」のリサイクル3ないシステムを推進しています。具体的には、自治会やスーパー、事業所、行政回収等によって集荷された古紙を分別、圧縮梱包して製紙メーカーへ紙の材料として出荷しています。古紙の種類によって用途が異なるため、回収際には分別が必要です。また、古紙に混入しては困るもの、リサイクルできないものを「禁忌品」というのですが、これを取り除いてから出していくことも大切です。



当社では、古紙だけでなく衣類やアルミ缶も取り扱っています。衣類を専門的にリサイクルする関連会社を立ち上げて、古紙に比べてリサイクル率の低い衣類を積極的にリサイクルしています。古紙も衣類も市民の方々の持ち込み大歓迎です！

また、古紙リサイクル、地球温暖化とごみの減量化などをテーマに、自治会や小・中学校等への出前講座、工場見学の受け入れ等を随時行っていますので、ぜひお問合せ下さい。美しい地球と、未来のために一緒にリサイクルを推進していきましょう！

代表取締役 黒田野史

TEL 0120-927-679（フリーダイヤル）
 ホームページ <http://kuroda-kk.co.jp/>



エネルギーをみんなに、そしてクリーンに

油藤商事株式会社

SDGsは、国連が提唱する2030年までに達成する17の持続可能な開発目標です。その7番目の目標「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」の取り組みを紹介します。

皆さん、「バイオディーゼル燃料」ってご存じですか？ 廃てんぷら油からつくる事ができ、軽油の代替え燃料としてトラックやバスの燃料になります。いわゆる再生可能エネルギーです。当社では、大津市内のご家庭の廃てんぷら油を回収し、大津市内のごみ収集車の燃料に循環利用する取り組みを行っています。回収しているのは大津市瀬田にある株式会社 江洲石油 ENEOS大津瀬田サービスステーション。大津市内のごみ収集車を運営しているのは株式会社木下カンセーさん。木下カンセーさんのごみ収集車は、ジンバイザメのカラーリングです。大津市民のご家庭から捨てられている廃食油を集めて、

リサイクル燃料「バイオディーゼル」に精製し、その燃料が大津市内のごみを回収する車両に使われているんです。これって正しく地域内資源循環のカタチですね！

下水に流された1リットルのてんぷら油の環境影響をゼロにするためには、お風呂400杯の水が必要だと言われています。琵琶湖を預かる滋賀県民として、「廃てんぷら油をびわ湖に1滴も流さない！」という決意を大切にしていきたいです。 代表取締役 青山裕史



ホームページ
<https://www.aburatou.co.jp/>



●豆知識 「MLGs」 SDGsは国連が定めた「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」です。MLGsはご存じですか？ 琵琶湖を通じてSDGsを県民のアクションに落とし込もうと、滋賀県が定めた琵琶湖版のSDGs「Mother Lake Goals」です。2030年の環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築に向けて、琵琶湖を切り口として独自に13のゴールが設定されています。円形のロゴマークは、琵琶湖をとりまく湖国・滋賀、そして地球を表現しています。「琵琶湖は生活を写す鏡」「琵琶湖は地球の問題を映す」ことを表し、琵琶湖・滋賀から世界を変えるための目標であることを表しています。

